

## ミニトマトの栽培

### ◆おすすめ品種

**千果（ちか）**…果色は濃赤色で美しい光沢があり、きれいな球形で果揃いがよい。糖度は8～10度で緻密な肉質で食味が特にすぐれる。

### ◆特性

原産は、南アフリカの熱帯、ペルー、エクアドルですが、標高の高い2,000～3,000mの高地とされています。したがって多湿を嫌い強い光を好みます。暑さを嫌い、昼夜の温度差があるほうが良いとされています。

### ◆定植準備

5月に苗を入れるのが一般的。ほ場はできるだけ排水の良い場所を選び、連作を嫌いますので、ナス科の野菜（茄子、ピーマン、じゃがいもなど）を3～4年作っていない場所が理想的である。

基肥を施す前に、土壌診断を行うこと。トマトの最適p hは6.4。

施肥例（10a当たり）

肥料名	基肥	追肥
堆肥	4,000 kg	
苦土石灰	150 kg	
BMようりん	40 kg	
CDUたまご化成	70 kg	
磷硝安加理S604		1回当たり20kgを4～5回行う

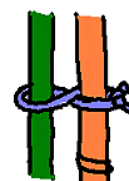
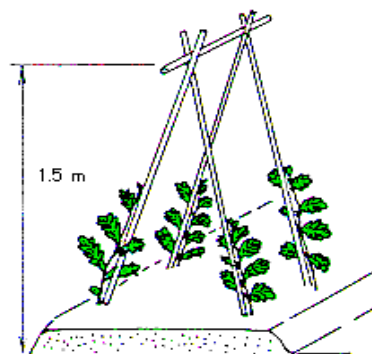
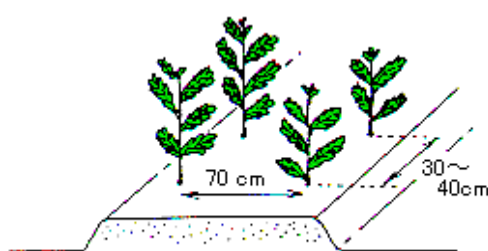
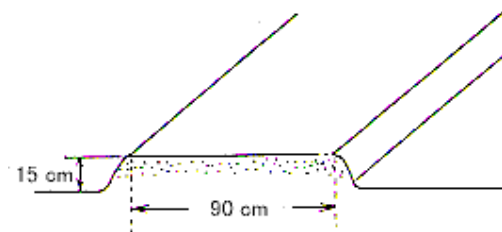
ベッド幅 約90cm 高さ15cm

定植数日前には、マルチをしておき、地温を高めておくことが大切である。

### ◆定植

定植作業は、晴天日に行うことを原則とする。定植苗は、第1時花房開花前が適期で、当日の朝、十分に灌水し吸水を確認した後、定植を行う。植え穴に殺虫剤を入れ、十分灌水して苗は通路側に向け、浅植えを原則とする

また、トマトは果実が重くなるので支柱は、合掌型がよいでしょう。支柱には8の字に誘引します。



## ◆ 定植後の管理

- ①活着するまでは極端な乾燥を避ける。活着後の灌水は控えめを基本とし、様子をみながら少量回数を原則とし、決して十分な灌水は行わない。
- ②温度は日中で23～25℃、夜は10～12℃を目安にする。(30℃以上にはしない)
- ③ホルモン処理を行う。次々と花が咲いてくるので、1花房当たり2～3回処理する。
- ④わき芽が伸びやすいので、早めに取り除いておく。
- ⑤ミニトマトは草勢が弱まるとマイナス面が多く出てくるので、草勢を落とさぬよう、早めの追肥を行う。第1回目は第3～4花房開花時に行う。その後、草勢を見ながら15日間隔を目安に行う。
- ⑥収穫始めころから下の葉の黄化が始まるので、摘葉を行う。ミニトマトは、老化による葉の枯れに上がりやすいので、黄化した葉は順次摘葉する。
- ⑦病虫害防除は予防散布を心がける。

灰色かび病 …発生適温20～23℃の多湿条件で発生。雨除け栽培では換気を行う。枯葉などは発生源となるので、早めに取り除く。

葉かび病 …気温22～25℃の多湿条件で発生。灰色かび病と同様に換気を行う。

疫 病 …梅雨期から初夏にかけて比較的低温多雨の年の露地栽培に多く発生する。マルチを行って泥のはねかえりを防ぐ。

アブラムシ類…周囲の雑草が発生源となるので除草を行う。

オンシツコナジラミ…雨除けハウスで発生。

## ◆ 収穫・収量

果実が十分に着色し、果実をつまんで上に向けると簡単に取れる時期が適期である。収量は7段果房収穫で10a当たり2,000～3,000kg位。

ミニトマトのパックに200g入れての出荷となります。

